

九州北部



NOSAI福岡
〒810-0001
福岡市中央区天神
1丁目2-4
☎092-721-5521

NOSAI佐賀
〒840-0805
佐賀市神野西
4丁目4番14号
☎0952-31-4171

NOSAI長崎
〒854-0071
諫早市永昌東町
22-10
☎0957-23-6161

NOSAIおおいた
〒870-0822
大分市大道町
3丁目1番1号
☎097-544-8110

【大分支局】玖珠町の有限会社サンケンでは9月22日、同町内の水田、用水路で高圧温水を使ったジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の駆除テストを実施した。生産者、JA、行政機関の職員ら約20人が参加し、農業を使用せず熱湯だけで駆除効果を検証。85〜98度の熱水を1平方メートルあたり15秒間噴射し、テスト圃場では卵塊と成員ともに100%駆除できた。

大分県 玖珠町 (有)サンケンが実証試験

同社は土木系資材を取り扱う商社で、環境事業部を2022年に設置。高圧洗浄機を使用した高圧温水除草事業に乗り出している。「農業を使用しない施工方法は環境負荷を抑えられるため、園芸ハウス近辺のアザミウマなどを駆除しているところ、県西部振興局の働きかけで、ジャンボタニシの駆除へ挑戦することに



検証に参加したサンケンのスタッフ（中央が武石部長）

なりました」と同社環境事業部の武石部長は話す。ジャンボタニシは1980年代前半に食用として輸入されたが、商品価値が乏しく、放棄され野生化した。被害が全国的に拡大するにつれて、温暖化で暖な気候を好むため、現状では全国の被害面積に対して、九州地方が占める割合は多い。しかし、温暖化で被害が全国的に拡大するにつれて懸念されている。耐寒性が弱いジャンボタニシは、マイナス3度以下

ジャンボタニシ対策 高圧温水で高い効果

85〜98度を15秒間噴射 卵塊と成員を100%駆除



ジャンボタニシの卵塊に向かって85〜98度の熱水を噴射 噴射後に死滅したジャンボタニシ



になると多くの個体が死滅。しかし、1割ほどの個体は厳寒期に地中や用水路などの比較的暖かい箇所まで越冬し、水温の上がる田植え時期に稲の食害を引き起こす。その後、初夏に用水路の壁面やあぜの植物に産卵し、10日ほどでふ化。幼虫が秋には成員となり、また越冬するという生態サイクルを繰り返す。

武石部長は「ジャンボタニシの特性や実験結果から、土用干し時期の卵塊と稲刈り後に越冬する成員を用水路近辺で駆除し、越冬個体数を減らすことが最も有効です。さらに駆除効果を高めるために、水田内の越冬個体数を減らすことが重要で、そのためには生産者の協力が必要です。地域全体を引き入れながら被害の低減に努めたい」と意気込む。

▽問い合わせ先 有限会社サンケン（玖珠町山田371の6、☎0973-721-0621、ファクス0973-77-2038）▽ホームページアドレス（<https://sanken-un-sou.com>）（太田 彰）